

パラグアイ海外邦人安全対策情報(令和5年7月～9月)

1 ポイント

- アスンシオン市やその近郊などの都市部で多発している路上強盗では、被害者が犯人グループに抵抗したことにより、銃撃され、死傷する事例が度々報道されました。
- アルト・パラナ県イグアス市周辺など邦人が多く居住する地域で、複数の強盗犯による住宅侵入強盗が頻発しました。

2 犯罪傾向と安全対策の詳細情報

以下のページ(安全の手引き)も併せてご確認ください。

https://www.py.emb-japan.go.jp/itpr_ja/anzentebiki.html

3 主な事件

- ・7月3日(月)午後3時頃、アスンシオン市ビスタ・アレグレ地区の路上において、国家警察庁の特殊部隊に所属する女性警察官が私服で歩いていたところ、拳銃を所持した男に襲われて所持品を奪われそうになったため、犯人を取り押さえようとしたところ、発砲を受けて負傷した。
- ・7月27日(木)深夜、カニンデジュ県ヌエバ・エスペランサ市内を走る国道7号線の路上において、電子機器を積載したトラックの車列が警備会社護衛の下移動していたところ、車両及びオートバイの武装犯約20名が車列を包囲し、荷台の電子機器を奪った上、車列に放火して逃走した。
- ・8月19日(土)午前5時頃、セントラル県ニエンブ市内のガソリンスタンドにおいて、オートバイ2台に乗った男4名が、男性客数名を拳銃で脅し現金を要求したが、被害男性らが現金の引き渡しを拒否したため、発砲を受けて負傷した。犯人グループは被害者から現金(約7,000米ドル)を奪い逃走した。
- ・9月3日(日)深夜、アスンシオン市カンポ・グランデ地区の路上において、オートバイで恋人と帰宅中の男性が、オートバイで近づいてきた2人組の男に発砲し所持品を奪い逃走した。銃弾を受けた被害男性はその後死亡が確認された。
- ・9月11日(月)午後10時頃、アルト・パラナ県イグアス市内において、散弾銃等を所持した男4人組が邦人宅に押し入り、銃器で脅した上、被害者を拘束し、現金(約800米ドル)、自家用車、家電製品、携帯電話、衣類等を奪い逃走した。
- ・9月17日(日)夜、アスンシオン市内メルカド・クアトロ市場周辺の路上において、男性が車で移動中、オートバイで接近してきた男2名から銃撃を受け死亡した。被害男性はブラジルの犯罪組織PCCのメンバーとされている。
- ・9月26日(火)午前4時頃、アスンシオン市ビジャ・モラ地区のATMコーナーにおいて、男3人組がガスボンベを爆発させ、ATM内の現金を奪おうとしたところ、盗難防止用のインク噴射装置が作動したため、現金を奪わず逃走した。

ⁱ ブラジルの麻薬密売組織「Primer Comando de la Capital (PCC)」

ブラジルとの国境を接する地域だけでなく、アスンシオン市やその近郊などにも広く潜伏。主に麻薬取引を資金源に活動しており、対立するギャングとの抗争事件が度々発生。組織の関係者が強盗などの一般犯罪に関与している事例も多く報じられている。